

港湾改修事業の再評価項目調書

事業名	油谷港 <sup>ゆやこう</sup> 唐崎地区 <sup>からさきちく</sup> 防波堤整備事業		事業主体	中国地方整備局
所在地	山口県長門市 <sup>ながとし</sup>			
事業概要	<p>油谷港は、山口県の北西部北長門地区に位置し、冬季風浪の厳しい日本海側において、北方に約10kmに渡って横たわる向津具半島<sup>むかつく</sup>により天然の良港を形成している。日本海側の荒波と岩礁の景観に比べ、静穏な港内の景観は対照的である。海岸線は、西長門海岸県立自然公園に指定されており、北長門海岸国定公園に連なっている。昭和29年に地形上の特性から避難港に指定され、山陰地方における一般貨物船等の避難港として重要な役割を果たしてきており、その後昭和37年8月には地方港湾に指定されている。</p> <p>本港は、天然の良港ではあるが、気象の急変に伴う緊急時の避難施設については、極めて不十分なことから、100～500GTの小型船舶等を対象とした避難施設を整備するものである。 GT...総トン数</p> <p>平成2年度より調査に着手し、唐崎地区に防波堤(北)1,200m、並びに防波堤(西)400mの整備が計画され、現在鋭意施工中である。</p> <p>本防波堤の整備により、船舶の避難に必要な静穏な水域が確保され、荒天時に安全な避泊を行うことが可能となり、もって船舶交通の安全性及び信頼性の向上に寄与するものである。</p>			
事業採択年度	平成2年度			
総事業費	約81億円	既投資額	平成16年度末まで約29億円 (進捗率36%)	
再評価の必要性に関する視点	<p>ア) 事業をめぐる社会情勢等の変化</p> <p>油谷港の避難隻数は、自然条件(荒天回数)に左右されるものであり、事業採択時から現在まで顕著な増減傾向は出ていない。</p>			
	<p>イ) 費用便益分析(平成17年度価値換算による) (残事業)事業全体</p>			
	<p>本事業に要する費用(総費用)</p>		<p>本事業による効果(総便益)</p>	
	<p>建設費</p> <p>総事業費 1 (52) 81億円</p> <p>2 (49.4) 77.2億円</p> <p>現在価値事業費</p> <p>3 (36.9) 74.0億円</p> <p>総費用(C)</p> <p>= (36.9) 74.0億円</p>		<p>海難減少に伴う損失の回避額</p> <p>安全便益 (577.5) 577.5億円</p> <p>残存価値 4 (0.4) 0.7億円</p> <p>総便益(B)</p> <p>+ = (577.9) 578.2億円</p>	
	<p>1: 既に登録されている当事業に必要な費用(消費税含む。)</p> <p>2: 既に登録されている当事業に必要な費用(消費税除く。)</p> <p>3: 将来または過去の費用を、現在の価値に換算したもの。</p>		<p>4: 評価対象期間末時点で、当該事業に残っている価値</p>	
<p>評価対象期間内 = 整備期間 + 50年</p>				
<p>費用対効果分析の結果 前回評価時 B / C = ( - ) 2.4</p> <p>今回評価時 B / C = ( 15.7 ) 7.8</p>				
<p>「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル(平成16年6月)による」</p>				

事業名	ゆやこう からさきちく 油谷港 唐崎地区 防波堤整備事業	事業主体	中国地方整備局
再 評 価 の 必 要 性 に 関 する 視 点	<p>ウ) 貨幣換算しなかったが定性的に評価できる事項</p> <p>1. 輸送の信頼性の向上 船舶の安定運航が可能となり、船舶輸送の信頼性が向上する。</p> <p>2. 輸送コストの削減 より目的地に近い港湾での避泊が可能となり、待機時間の短縮による輸送コストの削減が図られる。</p> <p>エ) 事業の進捗状況</p> <p>1. 主な経緯 平成 2年 防波堤(北)着工 平成 4年 防波堤(西)着工 平成12年 事業再評価実施 平成17年 事業再評価実施 平成20年代前半 防波堤(西)完成予定 平成30年代前半 防波堤(北)完成予定</p> <p>2. 事業の進捗状況 現在、事業の進捗状況は36%である。</p>		
事業 進 捗 の 見 込 み	<p>本事業の現在までの進捗状況は36%であり、船舶の避難に必要な静穏な水域を確保するため、防波堤を所定の延長まで整備すべく順調に工事を進めている。</p>		
コ ス ト 縮 減 や 代 替 案 の 可 能 性	<p>使用材料及び施工方法等の観点から検討を実施し、経済比較を行った結果、既定計画(現設計)による施工断面が最も安価であることを確認しているが、今後もコスト削減に努めることとしている。</p> <p>、 の視点により、代替案を検討する必要はないと考えている。</p>		
今 後 の 対 応 方 針	<p>本事業は十分な投資効果及び進捗の目途が確認されるため、本事業を継続することとしたい。</p>		